

## ■ 中名田地区自主防災会の取組み

【名称】中名田地区自主防災会

【目的】地区住民の隣保協同ならびに相互扶助精神に基づいて自主的な防災活動を行うことで、風水害その他の災害による被害を防ぎ、あるいはその軽減を図ることを目的とする。

- 【事業】1) 防災知識の普及・啓発に関すること。  
2) 防災訓練に関すること。  
3) 風水害等の災害発生時における情報の収集、伝達、初期消火、救出、救護、避難誘導、給水給食等の応急対策に関すること。  
4) 防災資機材の備蓄、整備に関すること。  
5) その他

【自主防災会および災害対策（警戒）本部組織図】



小浜市中名田地区  
小浜市の最西南端に位置、東西に細長い地形の87%が山地で西から東へ田村川が、南川に合流している。



防災活動体制でコアム (年1回の更新)  
ケーブルテレビ 収録「E〜仲間たち!」 自主防災活動を紹介

**中名田地区自主防災会の特徴**  
 ・地区の組織であり、地区内の区（全6区）が参画  
 ・区長会、地元消防団、地区内関係団体も参画  
 ・事務局は中名田公民館が担当  
 ・自主防災会の会長は、区長会の会長が務めるが、実務の中心は地域づくり協議会の専門部会が担当することで活動の継続性と区長会との連携を両立している

中名田地区自主防災会

## ■ 原子力広域避難の取組み

避難先の視察と意見交換会  
【県外】兵庫県豊岡市（市内6か所）



避難先・遊覧経路のマップ作成と全戸配布



【県内】鯖江市立待地区



避難先・遊覧経路のマップ作成と全戸配布



中名田地区自主防災会

## ■ 地区防災の取組み

平常時の取組み（地域づくり協議会が中心に活動） 当地区は山間地域、特に土砂災害に注力

- ① 防災研修会の開催および情報共有会議（毎年6月定例＋臨時）等の開催



地区自主防災会 情報共有会議 専門家を迎えての研修会 区単位で防災力強化の意見交換会 トラシューバ(実践研修会)

- ② 防災備品の購入



- ③ 土のピットの設置や雨量計の作製



- ④ ハザードマップと防災連絡表の作成・全戸配布



- ⑤ 要配慮者支援名簿及び避難支援個別計画の策定



中名田地区自主防災会

## ■ 地区防災の取組み

警戒体制時の取組み（地区自主防災会が主動） 活動事例：2017年10月台風21号、警戒体制

本部役員・総務班…区長会、協議会 正副代表、防災安全部会

住民対応班…区長、代理区長、組長、防犯班



① 対応方針を協議 ② 公民館に本部設置



③ 住民対応班・住民への対応 ④ 地図で被害の位置を確認

当時の主な行動実績  
 ・自主防災本部の設置、関係団体への集合要請  
 ・インターネット等による気象情報の収集、関係者への状況報告  
 ・防犯班への土のう作成要請（消防団に協力）  
 ・消防団の各所に食料配達

当時の主な行動実績  
 ・災害2軒が1山からの排水で濁水合流に!!  
 ・消防団に現場確認要請、消防団は水中ポンプで排水処理  
 ・土砂災害警戒レベル5に到達確認（ネットによる情報収集）  
 ・ハザードマップ（赤色）(特別警戒区域)の世帯に安否確認と  
 避難誘導の誘導を実施

防災活動班 …小浜消防団 第8分団



消防団の統制のとれた活動＝被害の最小化を実現

「安心して暮らせる長寿の地区」を目指して活動を継続・推進します!!

「夜明けの地区の様子」



土砂の流出、警戒の前線もある入約、管理損壊などの被害なし

中名田地区自主防災会

NHK福井放送局長賞

小浜市中名田地区自主防災会

# 社北地区の防災マップ《水害編》発行!

## ⚠️ 防災活動内容

2020年8月 社北地区約3,000戸に防災マップ(水害に特化したハザードマップ)を配布しました。

近年、毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。社北地区でも2004年の福井豪雨時には、みどり図書館をはじめ大きな被害に見舞われました。

反面、年月が経つにつれ災害の記憶も風化しつつあり、改めて地域の皆様に自分たちの町を再認識していただき、もしもの備えを考えるきっかけ作りにもおらうと、社北地区ハザードマップを作成しました。

## ⚠️ 防災マップ作成にあたり気をつけたこと

災害前にできること(非常用持ち出し袋や家族での情報共有)

災害発生時に必要なこと(情報収集方法と避難方法)

この両面から、地域の情報に特化した内容とすること。

また、サイズは、家庭内で目に付くところに貼っていただけるよう、A3サイズとし、わかりやすいフォントやイラストを使用して読みやすさにも配慮しました。



## ⚠️ 地図面

地区の浸水深、避難場所、公衆電話など、情報を絞り込んで見やすいレイアウトしました

- 浸水深の凡例はイメージしやすいよう、深さを身長や建物と比較して表現
- 社北地区が他地区に比べても水害が発生しやすいことを告知
- 若年層になじみの薄い公衆電話の使い方や非常時の有効性も説明
- コロナウイルス感染拡大防止に伴う避難所の変更を告知
- 避難所以外の避難も提案
- 水害時に避難所として使用できない公園は掲載しない

## ⚠️ 情報面

災害前の準備や、災害時の情報の取り方、情報の判断基準、避難時のポイントなどを整理しました

- 警戒レベルも整理して分かりやすく図示
- お子さまにも分かりやすく図解で説明
- 家族で話し合う機会を記入欄で提案
- 非常用持ち出し袋の中身はコロナウイルス対策として衛生用品を追加
- 各家庭で個々に必要となる物をフリースペースに記入できる
- 国や県の情報も他人事とならないよう、狐川等のなじみのある地名を記載
- ライブカメラの映像や、最新情報を取りやすいSNSなどのQRコードを集めた

最新の情報をチェックして確実に避難しましょう!

避難のポイント(水害時)

- ブレイカーを閉めず
- 持ちもの
- ローマ字で書いて
- 歩ける深さ
- 足元に注意
- 子どもやお年寄りを安全に
- 避難できない時は2階へ

家族でやること

- 避難経路を確認しよう
- 避難方法を決めよう
- 一人ひとりに役割を

避難所情報

- 避難所情報
- 避難所情報
- 避難所情報

## ⚠️ 地域への配布とこれから

2020年の春頃から準備に取り掛かりましたが、制作中にも熊本や広島、岐阜、山形など各地で集中豪雨が頻発。多くの被害が連日報道され、防災に対する関心が高まっているタイミングでの配布となりました。制作当初は地区の防災訓練での活用も考えていましたが、コロナウイルス感染拡大により訓練が中止。防災に対して心構えを家族で話し合うきっかけ作りになったと思います。今後、災害発生時には感染防止のため避難所以外に避難する方も多くなることも予想され、避難経路を確認し歩いてみる、一人ひとりの役割を決めるなど、事前の準備や家族で話し合っておくことが、より重要になってくる事を告知できたとします。このマップもポスターにして公民館に掲示し、常に関心を持ってよう、地域に住む一人ひとりの防災・減災に繋げていきたいと思っています。

防災マップを効果的に活用していただくため、国土交通省発行のフローチャートも同時に配布しました

「みんなで繋ごう・わがまちの防災の輪」

福井県三方郡美浜町 郷市区自主防災会

1 はじめに

郷市区自主防災会は、平成23年1月に区民総会のもと設立しました。区民全員が会員となり、役員として活動するグループを高齢者から青年に至るまで年齢層ごとに次の10部に区分して任務を分担しています。

総務部(災害時は指揮部)・消火部・情報部・避難誘導部・救出部・応急対策部・救護部・要援護者支援部・炊出部・避難所運営部

また、防災倉庫を設置し、発電機や救助器具など約40種類の機器や備品と非常食、保存水などを備蓄して災害に備えています。

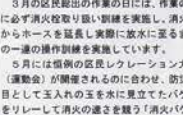
2 年間を通じての活動

○ 年間を通じて恒例的に行う防災に関する活動は、1月に区の総会に合わせて自主防災会の総会を開催して年間の事業計画を策定し、3月の区民総会の作業の日には、作業の軌跡を消火栓取り廻り訓練を実施し、消火栓からホースを延長し実際に放水に至るまでの一連の操作訓練を実施しています。

5月には恒例の区民レクリエーション大会(運動会)が開催されるのに合わせて、防災種目として玉入れの玉を水に見立てたバケツをリレーして消火の速さを競う「消火バケツリレー」や布巾と竹竿を使用した応急担架製作でダミー人形を搬送する「応急担架リレー」、水消火器を使って約を倒す速さを競う「消火器リレー」、「防災0×クイズ」などの防災に関する種目を取り入れて、運動会を楽しみながら区民の防災意識の向上と技術の習得を図っています。



応急担架リレー



消火バケツリレー



応急担架リレー



消火バケツリレー

○ 9月は毎年の防災月間として防災研修や防災訓練などを行っています。特に3年に一度は区総合防災訓練を実施しており、区内全域で大規模な水、土砂崩れ、地震、火災などあらゆる災害が発生したことを想定し、災害対策本部を設置するとともに、区内各所で避難、誘導、避難訓練や防災、消火、救護、救出、炊出し、弱者支援訓練など区民総ぐるみで大規模な訓練を繰り返し実施しています。



災害対策本部設置訓練



地震により倒壊した建物内に取り残された人をチェンソーなどを使用して救出する訓練



要援護者をリヤカーで避難誘導する訓練



水防訓練の土のうづくり



水バケツ消火リレー訓練



炊出所を炊き出し訓練(ハイゼックスを用いた炊飯ほか)

○ また過去に3回、防災研修とウォーキングによる健康づくりを兼ねた「防災ウォーキング」を開催しています。区内のすべての消火栓ホース供給網を巡る約4キロのコースをウォーキングしながら、コース途中にある防災施設を見学してその場で防災クイズに答え、複数のトランシーバー

による無観中継訓練を行いました。また、途中で炊出所を設けて水分補給を兼ねて非常食の炊出しを行い、ウォーキング終了後に救急救命士による心肺蘇生法などの救急講習を受講しました。



各消火栓所で防災クイズを出して答える参加者



炊出所で休憩・水分補給

○ 平成29年には NPO「神戸の絆2005」副理事長の長手医師を講師に招いて防災講演会を開催し、合わせて消防署の救急救命士によるAEDによる救急講習を受講しました。



3 災害と健康  
令和元年は、敦賀市立看護大学の学生とともに防災活動を行いました。「災害から命を守る 健康づくり」をテーマに災害に対処するには健康が不可欠であるというまさに看護大学ならではの災害と健康を結び付けた新しい視点の取り組みでした。★ 災害時に避難をするにも健康でなければスムーズに動けない。★ 普段健康でなければ防災活動にも参加し辛い。

まず最初に看護学生が郷市区内の各戸を訪問して防災意識や健康状態の調査と防災に関するアンケートを行うとともに、訪問記録において自分たちの目で見た郷市区内の危険箇所や気になる事業を調査して地図に記入しました。その後、目を改めて区民と一緒にアンケート結果報告や区内危険箇所の結果を地図に掲載して報告があり、防災と健康について区民との意見交換会を実施しました。



恒例の区総合防災訓練にも「救護部」の一員として参加、火災現場におけるバケツリレーや火傷等の救護、救出現場や避難所における救護活動とともに区長への指導をしていただき、自主防災会として非常に有意義な訓練となりました。



看護学生の救護活動

4 組織活動の特徴  
ところで郷市区自主防災会の大きな特徴は、区民の多くを占める高齢者について、どこからかといえざらぬ側面が強い中、動ける側として元気に活動しています。ちなみに高齢者は長年地区に住み慣れおり区内の土地柄や区民のつながりなどに熟知していることから「情報部」と称した活動部を編成し、常に防災に関する情報収集をはじめ常に区内に滞在していることが多くことから火災発生時の初期消火隊の編成や災害時の避難誘導に当たると、自主防災会の中核を担っています。



情報部(老人会)を代表して自衛消防隊消火技術法大会に出場



初期消火をめざし消火器の取扱訓練を開催

5 おわりに  
これまでの防災活動により防災意識の喚起や技術の向上はもとより、訓練や研修に参加することにより区民同士のつながりや絆がより一層強くなりました。区民の皆さんはこれからも真剣に訓練や研修に参加していただくことはもちろんですが、これからもゲーム感覚や遊び感覚で楽しく愉快なうちに防災に関する知識や技術を習得していただける防災事業を企画したいと思います。本年は、新型コロナウイルス感染症の流行でほとんどができませんでしたが、「備えあれば憂いなし」やはり防災は大事なことであり、機会をたらいで感染防止に十分配慮しながら活動を行うことが必要です。